

2006年4月25日

日本家庭科教育学会会員各位  
会員所属機関所属長殿

日本家庭科教育学会  
会長 佐藤文子

### 第49回日本家庭科教育学会大会のご案内

薫風の候、皆様方にはますますご清栄のことと存じ上げます。

さて、日本家庭科教育学会では第49回大会を下記の通り開催いたします。会員各位の参加により、充実した研究交流と教育についての情報交換が行われますことを期待しております。

所属機関におかれましては、会員の大会参加に、ご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 大会要項

1. 期日 2006年7月1日(土)～2日(日)
2. 会場 日本女子大学  
〒112-0015 文京区目白台2-8-1  
03-5981-4133(事務局)
3. 日程
- |     |             |          |
|-----|-------------|----------|
| 第1日 | 7月1日(土)     |          |
|     | 9:30～12:15  | 研究発表     |
|     | 12:30～13:30 | 昼食会      |
|     | 13:50～15:20 | 総会       |
|     | 15:30～17:00 | 講演会      |
| 第2日 | 7月2日(日)     |          |
|     | 9:00～11:45  | 研究発表     |
|     | 12:00～13:00 | ポスター発表   |
|     | 12:30～13:45 | 新旧役員連絡会  |
|     | 14:00～16:30 | ラウンドテーブル |
4. 参加費
- |       |           |           |
|-------|-----------|-----------|
| 正会員   | 4000円(事前) | 5000円(当日) |
| 学生会員  | 2500円(事前) | 3000円(当日) |
| 非会員   | 5000円(事前) | 6000円(当日) |
| 学生非会員 | 3000円(事前) | 3500円(当日) |

## < 講演会 >

### テーマ：「今、求められるシティズンシップの教育と家庭科」(仮題)

現代社会の構造変容のなかで、いま、シティズンシップ教育の思想が見なおされ、政策や実践に取り入れようとする動きがあります。そうした状況を概観しつつ、その意味について家庭科教育の課題とかがかわらせて考えてみたい。

講師： 小玉 重夫 氏（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授）

日時 7月1日(土) 15:30～17:00

会場 日本女子大学 香雪館401

プロフィール：1986年東京大学法学部卒業、1993年東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学（1998年博士（教育学）の学位取得）。日本学術振興会特別研究員、法政大学・拓殖大学・國學院大學などの非常勤講師、慶應義塾大学助教授を経て、2001年より現職。2002年ミネソタ大学にて訪問研究員。

## < ラウンドテーブル >

### < RT1：子どもをとりまく生活課題と「授業経験」を問い直す > 香雪館301

市場化・私事化のただなかに生きる子どもの現在をみつめたとき、どのような生活課題が浮かびあがるのか。その課題を整理し、さらには、この現実と対峙し、試行錯誤する授業実践を検討したい。特に、衣食住・消費者教育、あるいは他教科との連携等々における、実践的・体験的な学習活動の現代的意義を問い直し、子どもにとっての授業経験の意味を実践の具体的報告に寄り添って議論を行いたい。

昨年報告例：「50分でもよくばり調理実習～食生活の体験学習」「テーマ学習『コンビニの食品を調べよう』から見えるもの 男子高校生の食生活に対する消費者意識」など

### < RT2：人間関係のスキルを育む >

香雪館302

他者との関係づくりに困難さを抱える子どもたちの問題が切実な課題として迫る現在、家庭科は、どう実践的に応答するのか。この課題に心える実践として家庭科に期待が高まる人間関係スキルの獲得。その授業の可能性と課題を検討し、議論を深めたい。

昨年報告例：「自己理解からはじまる家族・人間関係の授業づくり」「家族と家庭生活『赤ちゃんは愛情に敏感』ミニディベート」など

### < RT3：現場に生きる授業研究のあり方を問う >

香雪館304

子ども・教師・教材などが複雑に絡み合う授業という営みを読み解き、次なる実践へと質的に高める授業研究の「これから」を検討したい。授業者自らが実践過程に生じうる様々な問題状況をつかみ、学びの質を変容させる実践研究の可能性という視点から、現場の取り組み、および、現場と研究者との連携研究、あるいは、新たな研究の試行等、アクチュアルな授業研究を交流し、学ぶ場としたい。

昨年報告例：「地域の協力を得た授業からみた授業研究の一方法」「教師と授業研究主体的な研究組織での取り組みから - 」など

## 昼 食 会

日 時            7月1日(土)    12:30～13:30  
会 場            桜楓2号館  
会 費            1500円(事前申し込み)

全国からお集まりになられました皆様方と情報交換し、懇親を深めたいと存じます。短い時間ではございますが、多数のご出席をお待ち申し上げております。

大学周辺には、飲食店があまり多くありませんのでご注意ください。  
また、弁当の斡旋もいたしませんので、ご承知おき下さい。